

(様式第4号)

上田市文化財保護審議会 会議概要

1 会議名	上田市文化財保護審議会
2 日時	令和5年12月22日 午前10時から正午まで
3 会場	上田市役所本庁舎2階 202・203会議室
4 出席者	児玉委員、町田委員、堀内委員、小倉委員
5 市側出席者	小野沢教育次長、上原生涯学習・文化財課長、小林丸子地域教育事務所長、古平文化財保護担当係長、松井主査、甲田主査、谷口主査、滝沢主任、（いずれも生涯学習・文化財課） 久保主任（丸子地域教育事務所）、清水主査（真田地域教育事務所）
6 公開・非公開	<u>公開</u> ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和5年12月28日

協議事項等

1 開 会（生涯学習・文化財課長）
2 あいさつ（教育次長）
3 議事
(1) 会長、会長職務代理者の選出
・ 委員の互選により、児玉委員を会長に選出。
・ 上田市文化財保護条例の規定により、会長が町田委員を会長職務代理者に指名。
(2) 報告事項
①登録有形文化財の登録（見込み）について
・ 事務局から「前山寺本堂ほか」及び「りんどう橋」の新規登録見込みについて概要を説明
・ 以降、協議
（委員） 前山寺の登録基準は、玄関だけが「造形の規範になっているもの」ということでよいか。
（事務局） 玄関だけが「造形の規範」である。
（委員） りんどう橋の登録見込みの理由は
（事務局） 登録基準は、「再現することが容易ではないもの」である。当時はリベット工が多く、接合部に大きい釘を熱したものを叩きこむが、りんどう橋は異なり容易に現場で組み立てられる。そういったものが今は全国にも数少ない。
（委員） 明治初期にドイツから輸入しており、鉄鋼材自体が希少になっている。今の鋼材と成分が異なる。素材としても貴重なもの。
（委員） 橋は元々この1組だったのか。
（事務局） 丸子鉄道の千曲川橋梁6連のうち、丸子側にかかっていた2連に使われていた。このうちの1連をりんどう橋に転用している。
②上田城跡整備事業の進捗について
・ 事務局から概要を説明
・ 以降、協議
（委員） 三十間堀の中の石積みは見つからず、その上に新しい河原石が残るということによいか。
（事務局） 遺構の経過はよく分からないが、堀のラインは間違いないと見ている。専門家会議委員にも見てもらった。ただし、残っている石自体は近世のものではないと思われる。
（委員） 三十間堀の深さは分からないが、かなり下まで掘り取っているらしい。その代わりに河原石を並べたということ。解釈が難しい。
何度も色んな建物が建ったりしているので非常に難しい調査だが、図面と照らし合わせながら解釈できるような遺構を発見したと思う。

(委員) 根固めに上田泥流層由来の礫を入れる工法は珍しいものなのか。

(事務局) 現場を担当した職員によると、初めて見る工法ということ。2 年間の調査の中で上田泥流層から採取したと思われる石材を混ぜているようなものが他の場所でも出ている。今後さらに検証が必要だが仙石氏が復興したときの特徴である可能性がある。

(委員) 二階建ての櫓の真ん中を支える心柱は大事な構造物。本丸の櫓が建っていたところは土塁の上であり、本丸の堀を掘った土を盛りあげている。盛り上げておそらく叩いてはいるがその上に櫓を立てないといけな。土台を強固にしないといけなため、わざわざ脆い石を持ってきて敷き固めるといった工法をとったのではないかと思う。

櫓を建てる時に堀側の土羽はどうなっていたかというのが問題。石垣があったのか、礎石を据えて建物を立ち上げたのか、今は崩れているのでそのエリアは確保できていない、建物を復元するとなったときにどういう工法をとっているか。例えば杭を打ち込んで土台とするのか、あるいは土を持って叩いていくのか。

冠塀台という上田城の特徴的な石垣があるが、二の丸から入って 2 回も曲がり、入ろうとするとそこには冠塀台があり、また曲がらないといけな。ここは旧市民会館を解体するとき工事車両が入りするところになる。鉄板などを敷くなりして何とかやってほしい。

③仏像調査事業の進捗について

- ・事務局から概要を説明
- ・以降、協議

(委員) 主に平安時代後期から鎌倉時代の仏像を再調査している。平安・鎌倉期で今回特に重要なものは、芳泉寺の本尊や阿弥陀如来、正念寺の阿弥陀如来、神畑薬師堂の薬師如来。前山寺の大日如来は悉皆調査を初期の頃にやったがその時から注目しており、先日詳細調査をして改めて重要性を感じた。願行寺の阿弥陀三尊もきれいな構造で三体とも立っている(普通、両脇は坐像)、珍しい形式の像であるため、今後詳細調査をしてよく見てみたい。

前山寺の大日如来は、13 世紀の前半くらいに遡るのではないかな。まだ調査中だが、快慶の一番弟子の行快の作に近いのではないかと話をしている。行快は運慶快慶の一番弟子にあたる。行快の作品は関西の方に作品が出ている。詳しい研究者に写真を見ていただいたりして、ご意見を伺えればと思っている。

(委員) 悉皆調査等をしてこれ以上増えるのか。

(委員) 概ね網羅しているはず。悉皆調査をして、再度詳細調査で何うと悉皆調査の時にはなかったものがあつたりする。檀家さんから預かったなど。元々お寺にあったものは本尊を中心に確認している。

(事務局) 古かったり、特徴的なものに関してはおそらく見落としはない。詳細調査が済めば価値付けはできる。地域のお堂や自治会で持っているようなお堂は把握できていないものがある可能性もある。お寺も持っている仏像を全部把握できているわけではないことがあり、漏れがある可能性はある。

(委員) 改めて、この調査をしていただき、平安・鎌倉のものが出てくるなどよくやってくれたと思う。地域にとって新しい地域の形成過程を、そこに住んでいた人がどういう思いで生活していたか垣間見ることができる。

④今後の市指定文化財諮問予定案件について

④-1 刀

- ・事務局から概要を説明
- ・以降、協議

(委員) 東御市の赤岩地域に山浦正雄の住処があり、弟は清磨、息子が兼虎。兼虎が江戸に出た。数年前までは上田には清磨の刀は何本かあった。正雄の刀で県宝になっているものは市立博物館にある。

50 本近く山浦の刀を見て、上田の地だとはっきりしている刀は 2 本しか見たことがない。ぜひ上田市として指定をしていただきたい。正雄の刀で日本美術刀剣保存協会で重要刀剣で指定されているのは 4 本しかなく、その内の 1 本。

(委員) 山浦正雄の刀剣については既に県宝になっているものもある。刀そのものも非常に立派なもの。銘がきちんと上田と入っている。もう 1 度きちんと調査をして、報告書を出してもらいたい。

(委員) 青木安栄さんという方は何かわからないか。

(委員) 調べてみたが、上田藩に青木さんという武士は 2 人ほど名前が出てくるが、安栄の名前はない。松代藩も調べてみたがなかった。

(委員) 個人の方からこういうお話があったと思うが公開し、展示して市民の皆さんに見てもらうことは問題ないと思うが、もし指定になったらどこに置くのか。

(事務局) 今のところは所有者の方が保管する。一般公開などでご覧いただけるようにしたり、どのような活用ができるか考えていきたい。

④-2 竹室神社本殿

- ・事務局から概要を説明
- ・以降、協議

(委員) 年代はいつ頃か検討はついているか。

(事務局) 幕末、明治前期の特色がある。本殿は棟札があり、そこから分かると考えている。

(委員) 地元から指定の要望があったということで、宮大工も地元の宮大工ということで名前がわかっている。心配なのは幕末から明治の建造物ということで、上田市内には同時代のものが沢山ある。その辺の兼ね合いはどうなのか。

(事務局) 事務局、担当いただく委員とも話し、検討する。

(委員) 確かに側面の彫刻をみると立派。担当委員に調査していただいて、次回の時に報告書の提示と委員から見解を聞きたいと思う。